

田原の道 (一)



インも凝っていて、なかなか洒落ています。

橋の付け替えは、時代時代の交通事情の変化に対応したものです。昭和45年前後と言えば、国民総生産が世界第2位になり、万博が行われるなど、戦後の復興から世界を代表する経済国になった時期であり、その一方では公害問題が深刻化した頃です。家庭にも自家用自動車普及し、急速に車社会へ転換しました。

道は村々をつなぎ、人の交流や物流を促しました。古来の道は自然地形に制約されていましたが、現代の技術力では道が通せない場所はないほどです。

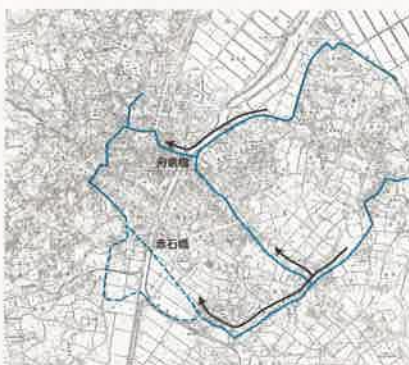
古い写真を整理していたらこんな写真を見つけました。橋の工事が、どこの橋かわかるでしょうか？
この写真は、昭和45年に開通した現在ある船倉橋の工事中の様子です。国道259号線上の船倉橋は田原の市街地に入る玄関にあたります。写真に見える手前の橋は大正12年2月に完成した古い船倉橋です。現在の橋より20メートルほど西にありました。欄干のデザ

かつての田原の市街地に入る道について、江戸時代の終わりの古文書には「田原街道モ今ノ船倉橋通りニアラズ赤石橋通也」「古代田原入口ハ赤石通り岩山二掛り新町ヨリ入候由、船倉橋後二掛り候由、青津村ヨリ前浜通り本道ノ由」と記されており、つまり青津から加治に抜け、新町に入っていたことが知られます。これは江戸時代初め頃(300年ほど前)までのことです。現在は川幅が狭い汐川ですが、かつては海が入り込んでいたようです。そのため、渡ることの可能な場所に道が通さ

れていたのです。「青津」(津は港をさす)の地名はまさにその状況を示しているのです。その後、寛文年間(330年ほど前)に船倉橋が完成し現在に至っています。豊橋からの道も、以前は谷熊から田原東部小学校付近を経由し、神戸市場から船倉橋に至っていました。その後259号線付近の道に替わっています。古い道は実際にどこを通っていたか正確に特定できませんが、今日見る道とは異なった場所を通っていたことは確かです。

このように、今存在する当たり前のことが、時代と共にどんどん風化していつてしまいます。かつてあった船倉橋も忘れ去られてしまっているのでしょうか。

*1 現在の加治字取手のあたり
*2 不明



●かつての田原城下への道

▽田原町博物館 222局1720

今月の表紙 COVER STORY

私たちは香りに敏感です。香りの情報は鼻から嗅覚神経を通過し、大脳辺縁系に伝達されます。この大脳辺縁系は、人の記憶や感情と深い関係があります。特定の香りによって思い出が蘇ったり、感情が変化したりするのはそのためでしょう▼香りと言えば、古代エジプトではミイラの防腐剤として、没薬(ミルラ)という植物の粉末を大量に使用したといわれています。この没薬、西洋では古くから香料や薫香として使用されてきたお馴染みの香りのようです。幾千の時を越え発見された(蘇った)ミイラに香る没薬。何ともミステリアスですね▼花の香りを楽しむことで私たちの心は癒されます。しかし本当に必要なのは、花の香りを楽しむもととする、ちよつとした心の余裕なのかもしれません。(写真・サンテパルクのチューリップの香りは如何)

【人口と世帯数】

総人口	36,814人		
男性	18,801人		
女性	18,013人		
世帯数	11,497世帯		
出生	25人	死亡	31人
転入	238人	転出	247人
増減	-15人		

(平成14年4月1日現在・増減は3月中)

【行政面積】 82.86 km²

(平成11年10月1日現在・国土地理院調べ)